



理 念

働く人と地域のために

患者中心の最善の医療を実施します

Contents

新年の挨拶

院 長	佐藤 譲	1
副院長	石丸 正寛	1
副院長	岡崎 裕司	1
副院長	並木 淳郎	2
副院長	香川 秀之	2
看護部長	山口千恵美	2
神経内科		3



新年のご挨拶

病院長 佐藤 譲

新年あけましておめでとうございます。日頃は当院の診療、運営面におきまして多大なご支援を頂き、厚く御礼申し上げます。昨年からは開始された病床機能報告制度で、当院は県に対し、ICU, HCU, CCUは高度急性期病棟、他病棟は一般急性期医療を提供する施設として届け出を行いました。また昨年11月までの累計ですが紹介率75%、逆紹介率66%と外来診療においてクリニックの先生方と間で強い連携実績をあげることができました。ここに御礼申し上げます。

このように急性期医療を推進するためには、重症度の高い患者さんを数多く受け入れ、効率的に治療する体制づくりが必要となります。当院では本年2月より入院前の外来の段階から一貫して患者さんの術前、入院管理を行い、治療の安全性を向上させるための「入院サポートセンター」サービスの導入を予定しております。当院は地域のランドマーク病院として皆様から信頼される医療を目指しております。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。



国の地域がん診療連携拠点病院の指定を目指して

副院長・外科部長・がん診療管理委員長 石丸 正寛

新年あけましておめでとうございます。当院は平成23年3月24日に神奈川県から“神奈川県がん診療連携指定病院”の指定を受けました。当院は従来より地域におけるがん医療水準の向上に貢献するとともに、がん患者登録・がん治療の現状や問題点の確認、集学的がん診断・治療、更には患者さんの意思を尊重したケアの充実を図ることを目的してがん診療管理委員会を軸に活動しています。

平成25年度は国の地域がん診療連携拠点病院の指定要件が見直され、より厳しい新規指定要件が発表されました。これを受けて当院もさらに国の“地域がん診療連携拠点病院”の指定取得を目指して活動してまいりますので、皆様方の一層のご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。



新年のご挨拶

副院長・整形外科統括部長 地域医療連携室長・感染症治療管理部長 岡崎 裕司

紙面で僭越ながら、新春のお喜びを申し上げます。

旧年中は地域医療連携を通じて大変お世話になりました。本年もよろしく、ご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

幸い昨年は経験せずに済んだエボラ出血熱、新型インフルエンザ等の重症感染症や、一昨年に経験したノロウイルス感染症など地域医療と深く関わった感染症の増加する昨今、感染症対策も含めた、地域包括ケアシステムの地域を上げての構築が喫緊の課題と認識している年明けです。

合わせて、院長肝いりの入院サポートセンターの立ち上げを2月に予定しております。患者さんの急性期入院中の安心、安全な医療の確保は勿論、回復期病院を介した退院後までのシームレスな、医療から在宅ケアまでのサポートが可能なサービスの提供を目標に皆様と共に病院一丸となって取り組んで参りたく存じ上げます。維持期医療へのご協力の程、ご高配賜りますれば幸いです。

末筆ながら、本年の皆様のご健勝、ご活躍を祈念しております。



新年の御挨拶

副院長・循環器内科部長 並木 淳 郎

新年あけましておめでとうございます。旧年中は、当院の診療および運営面で格別のご配慮をいただきありがとうございました。

昨年4月より、私は外来診療・救急部門を担当する副院長として、微力ながら当院の運営にかかわってきましたが、時期を同じくして施行された8年ぶりとなる医療法の改正により、病院を取り巻く環境が大きく変化しました。すなわち病棟ごとに機能を選択し、その条件に合致した運営を行っていかねばなくなり、当院は全ての病棟において、一般・高度急性期の機能を選択いたしました。このためには、救急医療に対する取り組みが重要となりますが、当院ではここ数年にわたり「救急車断り件数0」を目標とし、病院一丸となって取り組んでまいりました。その結果、現在では夜間および休日の時間外救急の最前線に対応する内科系医師の努力もあり、断り率は中原区内の2次救急病院の中で最も低くなり、本年は年間6,000台を超える救急車を受け入れることができるまでになりました。当院は今後も地域医療の要となるべく、病院一同誠心誠意努力してまいります。つきましては、皆様方の更なるご支援を賜りますよう心よりお願いいたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願いいたします。



当院産婦人科における分娩制限のお知らせ

副院長・産婦人科部長 香川 秀 之

新年あけましておめでとうございます。近年の当院周辺地域における周産期医療ニーズの爆発的な増加に対し、当院では助産師の大幅な増員や地域の産婦人科施設との医療連携の推進により、可能な限りの分娩受け入れを行い、分娩件数は2004年593件から2014年1,382件と2倍以上に増加しました。

しかしながら、この間の産科医師の増員は1名、小児科医師はむしろ減員となっており、安心・安全な周産期医療の実践といった医療安全の面からも、ハイリスク妊婦を積極的に受け入れる総合病院としての役割を果たすという面からも、現状のまま分娩希望者を受け入れていくことが困難と判断し、2015年2月から月間100件を目安とした分娩制限をさせて頂いております。

今後、周産期医療スタッフの人員確保への努力を継続するとともに、尚一層の医療連携の推進を行い、できる限りニーズへの対応を図っていきたいと考えておりますので、地域の先生方のご理解とご協力をよろしくお願い致します。



新年のご挨拶

看護部長 山口 千恵美

新年あけましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。看護部は、「患者中心のチーム医療」を推進すると共に、安全で質の高い看護実践ができ、皆様に満足していただけるように、人材育成や職場環境の改善に努力しているところです。専門看護師（精神看護）が誕生し、認定看護師は10分野16名となり、糖尿病療養指導士等を含めリソースナースが組織横断的に活動して、適切な看護の提供ができるように取り組んでいます。本年度は2月5日から、①患者サービスの向上②手術・治療の安全性向上③入院業務の効率化を目指し「入院サポートセンター」がスタートします。引き続き地域の皆様の期待に応えられる看護が提供できるように努めていきたいと思っています。今後ともご支援よろしくお願いいたします。

神経内科

神経内科 副部長 土屋 敦史

昨年11月より神経内科副部長に就任しました土屋です。神経内科では脳・脊髄・神経・筋肉など幅広い範囲での病気を診療しています。人事異動のため平成26年6月より入院診療業務停止、新患受付の制限をしていましたが、11月よりそれぞれ制限解除されております。ご紹介をお待ちしております。

また、私自身が血管内治療専門医であることもあり、脳神経外科と共同して脳梗塞急性期におけるtPA治療、それに引き続く血行再建術、脳外科疾患に対する血管内治療についても行っております。

診療内容

■脳血管障害

脳神経外科と共同して急性期症例の受け入れを積極的に行っております。適応症例に対してはtPAによる再開通療法を行い、血管内治療が必要な症例については聖マリアンナ医科大学東横病院と共同して治療にあたっております。当院での血管内治療も平成27年春頃にスタートできるよう準備中です。

■神経難病

パーキンソン病および関連疾患、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症など難病に対しても十分な精査を行い診断や病状の把握に努めており、在宅療養指導を含めた総合的な対応を行っています。他科との連携をとりながら、胃瘻増設（PEG）や非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）の導入なども行っています。

■その他の神経疾患

脳炎、髄膜炎、てんかん、重症筋無力症、ギラン・バレー症候群など、多様な神経内科疾患に対応可能です。免疫性神経疾患に対する外来での免疫グロブリン大量静注療法も行っています。

■顔面けいれん、痙性斜頸・書痙、四肢拘縮

以前より疾患原因筋に対するボツリヌス毒素（ボトックス）療法を行っておりました。人事異動に伴い一時中断しておりましたが11月より再開しております。

■頭痛

主に慢性反復性頭痛に対し、頭痛専門医を中心とした診療を行っています。薬物治療だけでなく、頭痛ダイアリーの使用や生活指導などにも力を注いでいます。